

二〇二〇年五月八日

護符焚いて新樹の杜をけぶらしぬ
金婚式二人で祝ふ新茶かな
薫風裡歩数稼ぎに回り道
過疎村の賑はひに揚ぐ鯉のぼり

なつき
かかし
こすもす
明日香

二〇二〇年五月四日

村と村つなぎし谷の鯉幟
涼し気な水の調べよポンプ場
もやい舟あひ打ちあへる卯波かな

素 秀
たか子
智恵子

二〇二〇年五月七日

新緑の木立に仰ぐ天守閣
風鈴のひと鳴り句座の和みけり
老い母の自力に拍手更衣
乙女らの二の腕まぶし夏来る
万緑やコロナ禍なれど深呼吸
まほろばをとり囲みたる青嶺かな
武家町の高さを競ふ鯉幟

ぼんこ
素 秀
せいじ
菜 々
なつき
明日香
ひのと

灯に透けてシャンデリアめく棚の藤
白薔薇を浮き立たせをる薄暮かな
無住寺の塀越し匂ふ山椒の芽

素 秀
明日香
愛 正

二〇二〇年五月二日

萌黄なる山の緑に残花かな
魚河岸に高知弁飛ぶ初鯉
鯉幟わが里山の天辺に
貝殻のペンたて置かれ卓涼し
若葉光真白きマリア像包む

うつぎ
宏 虎
三 刀
みづき
満 天

二〇二〇年五月六日

ぴかぴかに玻璃戸を磨き夏迎ふ
神木は泰然自若青嵐
病院のエントランスに武者飾

菜 々
もとこ
やよい

二〇二〇年五月五日

柏餅買うて一つは写し絵に

はく子

毎日句会みのる選・二〇二〇年五月一日